

令和3年度 学校運営協議会評価書

松尾台小学校学校運営協議会

○4段階評価

A：適切 B：概ね適切 C：あまり適切でない D：適切でない

分野領域	評価項目	学校自己評価	自己評価改善の方策への評価	学校運営協議会委員の意見提言と次年度へ向けた改善策等
1 学校経営・方針	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に学び、心豊かに未来を拓く児童の育成」 ～いきいき笑顔、かがやけ松小っ子～ 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動を通して、累々とした事実の積み重ねの先に子どもたちの成長があると信じて子どもたちに向き合ってほしい。 自分の意見を聞いてもらい、認めてもらう経験を積み重ねていくことが必要である。 できる限りのコロナ対策を講じてくださっている。
2 運営・組織	<ul style="list-style-type: none"> 教育課題に即応する分掌の機動的な運営 教育力を高める組織的な活動 子どもの学習意欲を高める授業改善 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 過去の分掌、体制にこだわらず、スクラップ&ビルドすればよい。 校務を積極的に改善しようとする姿勢が見られる。先生方の心身の健康こそが子どもたちの心身のゆとり、笑顔につながる。大人の仲間作りを大切にしてほしい。 コミュニティスクールとして地域全体での活動を期待する。 ICT機器を活用した楽しく立体的な授業をされていて魅力を感じる。
3 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に対応した教育計画の策定 わかる授業の実践 高い教育効果が得られる学校行事の実施 主体的に活動する児童会活動 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> この社会情勢だからこそ目を背けてはいけなことがある。勉強はもちろん大切だが、本当の幸せを共感できる時間、学ぶ時間が必要ではないかと思う。 コロナの影響でできないことも多いと思うが、創意工夫で乗り切る必要がある。 ICT機器の有効利用と心の通い合う学びの両立を大切にしてほしい。
4 子どもサポート 生徒指導 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生き方を考えさせる生徒指導の確立 規範意識の育成 問題解決に向けた組織的な対応 きめ細かな学習生活支援の確立 深い子ども理解の上に立った学習指導 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童会主体のあいさつ運動+地域とのコラボ+わんわんボランティア等あいさつの定着に向けた取り組みをしていけたらよい。 組織的に生徒指導に対応されている姿勢がうかがえる。これは学校への信頼や安心につながる。困ったときはみんなが協力し合えることは松小が対峙してきたことである。 こどもの心の悩みに対応するスクールカウンセラーを活用すべき。 「共通理解」、「組織的」を大切に学校全体が一つになってお互いを尊重する意識が高まると子どもたちもクラス全体、学校全体へとよい意識が広まっていく。
5 保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクール 地域に開かれ信頼される学校 地域人材の積極的な活用 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域にはいろいろな経験、特技を持つ人がいます。コミスクルームをうまく開放してよりどころにできないでしょうか。 コミスクは始まったばかりだが、地域と学校の距離が少しずつ近づいているように思う。これからも地域の力が学校で十分活かせるよう活動を進めていきたい。 保護者同士の関わりが少なくなり、顔も分からなくなった。コミュニティでたくさんの方が関われる場を大切にしたい。 先生方と地域での熟議の場を増やしたい。
6 環境整備・施設設備	<ul style="list-style-type: none"> 安全で美しい学習環境の整備 学習を支える機能的な環境づくり 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修では、災害を配慮しながら進めてほしい。 老朽化している所を町に要求して、明るく安心安全な環境を整えていってほしい。 地域の力を大きく活用しながら、子どもたちの学習環境を整えていけたらよい。豊かな緑化と清掃には地域の力を大きく活用してよい。 縦割り掃除はとてもよい取り組みだと思ふ PTAのおそうじ活動もとても有効でありがたい。 ICTを活用できる状態になったのは評価できるが、ネットの環境やタブレットのスペック、集音マイクやカメラ、テクニカル担当者の配置などハード面にまた課題がある。オンラインはリアルと違い、そういった余計なストレスがあるため、改善されることを期待する。

(学校自己評価の妥当性と総合的な評価)

- 慢心の自己理解は、自分のよりよい姿を見えにくくし、自己をさらに高めるチャンスを逃す。謙虚な自己理解はうまく生かせば弱みを改善して自分を高める力になり得るが、その反面、過剰になれば自己を責めて傷つける危険をはらむ。しかし、「仲間がいて、共に取り組んだ足あとがあり、その足あとをめいめいが振り返り、成果を喜び、課題に気づき、次にできること、なすべきことを見つけ、知恵と力を寄り合って目標のために次のよき実践に取り組む」という先生方の学校自己評価の一連の作業は慢心や謙虚過剰の懸念を打ち消す力を持っています。改善策に書かれた先生の言葉は、いずれも「現場で汗をかいて取り組んできた自負」がうかがわれ、敬意を覚えます。これらを認め合い、補い合えば、無敵のチームではないか。
- コロナ禍にあっても、昨年と同じことをせず、もっとよくできないかとより工夫して学びを提供されている姿勢に感動しました。この姿勢があれば、学びを止めずできる限り最大限の取り組みをされると信じています。
- 学びは生涯必要である。コミスクルームを大人が学ぶ場にできたら面白いのではないかと。楽しく学ぶ大人を子どもたちが見て、何かを感じてもらえることを期待して、地域の人にとっても学校が学びの場になったら、本当のコミュニティスクールになるのではないかと。
- 先生方の熱意に感心する。コミュニティスクールの活性化で今後とも地域と学校との交流を増やしていけるようにしたい。